

トビタッタ！研究推進部（1） 鹿児島編 研究推進部長 丹生 憲一

11月16日（金）鹿児島甲南高校を訪れました。2年前に探究Ⅱのブータン班の生徒を連れて、近くにあるホールでの「高校生国際シンポジウム」というイベントに参加したことがありましたが、学校を訪問したのは初めて。今年で創立112周年を迎える伝統校です。名前の由来は甲突川の南に位置すること、西郷南州（隆盛）と大久保甲東（利通）にあやかっているそうです。明治維新の志士を生み出した地という自負を感じます。人々は西郷隆盛を「西郷先生」と呼び、西南戦争で没した薩摩隼人の墓をお参りする人は絶えません。そんなこともあってか、下校時、生徒が正門で立ち止まって振り返り、校舎に一礼してから帰る姿が印象的でした。その校舎は国の有形文化財に指定されています。皆さんも、今日から柏陵記念館に一礼して帰りますか。

生徒の課題研究発表では1年生4人のグループが「鹿児島を一時的に離れても、帰ってくる人を増やしたい」とUターン促進について、2年生1人が「ろう者の大学進学率を上げるために」と耳の不自由な人のために、大学や入試時の支援方法を探る内容でプレゼンを行いました。私も1年生に英語で「皆さんは将来、鹿児島に帰ってくるつもりですか？」と質問しました。「…日本語でもいいですか？」と断って、4人とも帰ってきたいとのこと。どこかの学校でも見られるおなじみの風景でした。これに続き、卒業生5人によるパネルディスカッションがありました。パネリストは東大、阪大、広大、長崎大（医学部）、九州大に在学中。それぞれが、どんな目的で進学したのか、今後どんな研究をしたいか、自分の言葉で話していて、在校生も聞き入っていました。

最後に探究の公開授業を参観。最初の20分間は1年生の「学び台湾」、後半2年生の「学びにUK（行け）」（このネーミングがユーモラス）参加生徒たちの講座を覗きに…。1年生はこの夏、すでに台湾でフィールドワークをしてきた結果を2月のシンポジウムでの発表に向けてまとめているところでした。15人だけで、テーマは「鹿児島黒毛和牛を売り込む（台湾の小籠包を参考に?）」「台湾の方言とさつま言葉」「都会に出ていく若者を地元呼び戻す」（全体会で発表した班）の三つです。ひとりひとりが主体的に動いているのが素晴らしいと思いました。フィールドワークの内容は、例えば、「進学はどこに？（台北・中国・韓国・アメリカなど）」「将来、台北で働きますか？」のような質問項目で、台北のような大都市からは、海外に出て行って帰ってこないということがわかったそうです。それよりも台南や台中から台北に出ていく若者の動きのほうが、鹿児島から福岡などの都市への動きに近いのでは？と投げかけておきました。本校でも同じようなテーマで探究しているので、国内でデータを分け合って共同研究するのも面白いと思います。UKは、43人。5人で一つの机を囲んで、それぞれに大学教授がついています。来年の2月に渡英する15人を決める最終選考段階ということで、熱のこもった「紙芝居」が展開されていました。ここに、「ろう者の大学進学」の子もいれば、「WEBサイト利用によって若い癌患者を精神的にサポートする」「ジビエ料理で獣害を防ぐ」などテーマは様々です。3分のプレゼン、5分の質疑応答だったと思いますが、私が見ていた班は教授がネイティブスピーカーで、優しくも鋭い突っ込みが入っていましたが、きちんと応える生徒も多くて感心しました。前の時間までパネラーだった大学生も一緒に座っていました。

鹿児島甲南高校で感じたのは、冒頭にも書いた通り「維新の志士を生み出した」地であることの誇りを胸に、明治維新150年を迎えた今も、南の玄関口に立って世界を見ている学校の姿です。我々も負けられないように、日本のへその近くで、この国の腹に力が入るようがんばりましょう！



せごどん・西郷隆盛



女子高ではありません。集会では女子が前方に。



下校時、校舎に一礼する女生徒たち

1 1月5日（月）第3学年総合 第14回

進路別の講座が進んでいます。総合とは別に、3年生は担任の先生方と面談、面接練習、小論文指導などが行われているところです。国公立大学の推薦入試も始まっています。体調管理をしっかりしてください。3年生の渡り廊下には、青色の横断幕が！先生方や同級生の激励、決意の言葉が毎日書き込まれています。皆さんの背中を力強く押してくれることでしょう。



1 1月13日（火）第2学年探究 第17回

17組が2時間にわたって中間発表会を行いました。3分のプレゼン時間が与えられ、2分間の質疑応答が設けられました。質問できなかった項目は、アドバイスシートに記入して発表者へ渡されます。今回の中間発表を受けて、関西学院でのSGH甲子園、甲南大学でのリサーチフェアへの出場班が選ばれます。発表した班とそのテーマは次の通りです。

2-1班「丹波市の外国人」 3-2「子供の情緒と教育」 6-1「丹波の水」 1-1「丹波篠山層群・ポスター」 1-2「丹波篠山層群・SNS」 3-1「教員の仕事と教育」 2-2「地域医療」 6-2「鉱石ラジオと防災教育」 4-1「子供の貧困・医療」 4-3「子供の貧困・水」 4-4「子供の貧困・経済」 4-2「子供の貧困・ジェンダー」 7-2「丹波布」 5-2「地域活性」 2-3「観光」 5-1「空き家の活用利用」 7-1「丹波の食育」



1 1月14日・21日（水）第1学年探究 第14・15回 探究I担当 土元 優一

議論を重ねていく中で、テーマが決まってきたつあります。各グループが取り組もうとしているテーマは次のようになっています。「どうすれば、災害時に人的被害を減らせるか」、「授業によりよく参加する方法～スタンディングデスクを使って～」、「人口増加に成功した都市の模倣は可能か」、「柏原高校をよりよくするにはどうすればよいか」、「情報通信を基盤に情報発信手段を確立、丹波の発展のさらなる糸口を探る」、「丹波市のイベントを盛り上げ、人々を呼び寄せるには」、「丹波の人口減少を解消しつつ、国際交流を活発にさせる(姉妹都市を結ぶには)」、「丹波市に観光客を呼び込むにはどうしたらいいか」

